

# なら 植防ニュース

## 平成28年度農薬安全使用研修会

3月16日にリサイクル館かしはら（橿原市）で、田代暢哉氏（佐賀県上場営農センター 所長）、井村岳男氏（奈良県病害虫防除所 総括研究員）の2名の講師を招いて研修会が開催された。

井村氏から「最近の病害虫の発生状況」について講演がされ、①ネギベと病、②イチゴのナミハダニ黄緑型、③マイマイガがあげられた。このうち①について紹介する。ネギベと病は、昨年県内外で大発生し、大きな被害をもたらした。本病害は、畑に被害葉が残ると伝染源になるため、前歴のある畑では今年も発病の危険があり、予防散布の徹底が重要となる。他の対策では、株間や条間を広くとって風通しを良くする、発病株をすき込まず、伝染源をほ場外へ持ち出す。また、薬剤防除では、混合剤の成分毎の使用回数に注意し、ローテーション散布をおこなう。ネギ、わけぎ、あさつき、葉タマネギ等は似ているが、それぞれ農薬登録上、別登録となるので、適用作物を確認してから農薬散布を行なう。

田代氏は「効果的防除の基礎と実践」について講演された。防除とは、**予防+駆除**であり、薬剤散布において、病害は予防、虫害は駆除が主となる。ただ、微小な害虫（ダニ類やアザミウマ類など）は発生に気づきにくいという点で、病気のように予防が必要となる。加害時期に合わせて薬剤散布時期を調整し、防除を行なう。防除は先

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒633-0046 桜井市池之内 130-1  
奈良県農業研究開発センター内  
TEL0744(47)4861  
FAX0744(47)4862(専用)

## 目次

平成28年度農薬安全使用研修会	1
近畿中国四国問題別研究会	2
日本植物防疫協会シンポジウム	3
登録失効になった農薬	4

手必勝であり、逆転勝ちはないので、どんな病害虫が発生するかを予測し、備えておく。危機管理とリスク管理が防除の上で重要である。

農薬の防除は、効果や省力、コスト面で他の防除法と比べて優れており、重要な手段である。農薬の防除効果を最大限生かすには、散布の際、作物への薬液の付着量を最大にすることである。では、付着量を最大にする工夫とは何か？それは、噴霧粒径を大きくし、ドリフトを少なくすることである。これにより、風による影響を受けにくく、作物への薬剤の付着量が多くなる。

その他の薬剤散布上のテクニックとして、以下が挙げられた。

- ・薬液濃度は所定濃度内で濃い方を選ぶ。
- ・薬剤の単用散布が基本（混用散布を極力控える）。
- ・散布後 24 時間以内の降雨は、薬液の流亡が顕著になるので、注意する。
- ・薬剤散布の最適時間帯は早朝である。（風の影響も受けにくく、薬害も少ない。）

## 近畿中国四国問題別研究会「病虫害部会」の報告

奈良県病虫害防除所 井村岳男

平成29年3月1日～3日に、広島県福山市で標記研究会が開催された。近畿中国四国地域の公設試の病虫害研究員等が参集し、今年度の試験研究結果について報告し、討議を行った。本研究会での報告は未発表データを含むので詳細を述べる事が出来ないが、ここでは本県農業と関連するトピックについて簡単に紹介したい。

### 1. アブラナ科根こぶ病の対策について

アブラナ科作物の根こぶ病は土壌病害であり、水はけの悪いほ場やアブラナ科連作ほ場で多発する傾向がある。いくつかの防除薬剤が登録されているものの、土壌中の菌を死滅させるのは困難である。また、露地ほ場での土壌くん蒸剤の使用は周辺住民等への危害の可能性もあり、使用できる場面が限定される。今回の研究会では、土壌還元消毒、土壌改良資材や石灰窒素による防除、殺菌剤の土壌処理による防除の効果について報告があった。

本県でも、水田転作で加工用キャベツやブロッコリーの生産を振興しており、立地条件に応じた様々な防除技術のメニューを検討する必要があると思われた。

### 2. アザミウマ類対策

近年は、ミナミキイロアザミウマを始めとするアザミウマ類の殺虫剤抵抗性発達が顕著であり、各地で様々な技術が検討されている。今回の研究会では、発生種確認のための簡易な飼育法、現場指導に利用しやすい簡易感受性検定キットの開発、赤色光照射や赤色防虫ネットを利用した防除技術、新規天敵資材を利用した防除技術について報告があった。

本県でも、露地ナスのミナミキイロアザミウマ対策として土着天敵ヒメハナカメムシ類の保護利用による防除を推進しているが、夏場のカスミカメ類対策として散布される殺虫剤が天敵に影響が大きいため、これらの整合性をとることが課題として残されている。今回の研究会では、こういった点を補完しうる技術も紹介されており、今後の対策向上につなげたい。



ミナミキイロアザミウマ

## 日本植物防疫協会シンポジウム 薬剤抵抗性対策の新たな展開

奈良県植物防疫協会 岡山 健夫

1月12日に日本教育会館一ツ橋ホールで日本植物防疫協会主催のシンポジウムが開催された。開会に先立ち、上路理事長は、殺菌剤・殺虫剤ともに高活性な新規薬剤の開発が集中的に行われているが、上市後に薬剤抵抗性の発生が報告され、指導機関やメーカーでは薬剤抵抗性管理に危機感がある。このシンポジウムは我が国の薬剤抵抗性リスクを予測するとともに、その対策に向けた課題を整理する機会としたいとの挨拶があった。

農林水産省消費・安全局植物防疫課白石課長補佐は、「薬剤抵抗性が疑われる事例とその対応に関する全国状況」を報告した。都道府県で発生が疑われる事例は、平成25年度の633件から28年度には1285件に増加している。殺菌剤ではアミスター、ストロビーなどQoI、カンタス、アフェットなどSDHI、トップジンMなどMBC、ロブラールなどジカルボキシイミドで耐性菌が広域に発生している。殺虫剤では、ネオニコチノイド系、スピノシン系、クロルフェナピル、合成ピレスロイド、プロフェジン、カーバメイト系などに薬剤抵抗性の発生がみられている。対策として全国的な発生状況の情報を共有し、詳細に分析して抵抗性発達の予防に積極的に取り組むことが重要とした。

日本曹達の山本氏は、薬剤抵抗性管理を見据えた新規の殺菌剤・殺虫剤の開発と普

及について報告した。新しい作用機構、異なる作用点・作用部位、病害虫スペクトルの拡大、抵抗性へ変異した作用点に対して有効な薬剤、さらには抵抗性誘導や多作用点など抵抗性リスクの低い作用機構をもつ、永く使いやすい薬剤開発に取り組んでいる。また、新規剤の開発と薬剤抵抗性管理をセットで考えることが重要である。

日本植物防疫協会の野田氏は、「ゲノム情報等を活用した薬剤抵抗性管理技術の開発」について、コナガのジアミド剤やワタアブラムシのネオニコチノイド剤抵抗性遺伝子診断法、簡易生物検定法を報告した。プロジェクトの成果としてこれらの技術を用いたQoI剤耐性いもち病対策マニュアルやハダニ抵抗性管理ガイドラインが策定され、その実効性が期待される。

Japan FRAC (Fungicide Resistance Action Committee) の田辺氏は、FRACコード表について、コード11：QoI剤、コード3：DMI剤、コードM1～9：多作用点接触活性、抵抗性誘導剤：P2～3、作用が不明な薬剤U+番号とし、同一コードの薬剤は交差耐性の可能性があり、異なるコードでは交差しない。耐性リスクが高い病害としてキュウリ褐斑病、ウリ類つる枯病やべと病、うどんこ病、ブドウべと病、灰色かび病、いもち病が挙げられた。コード番号は、オーストラリアで義務化され、アメリカではガイドラインが作成されている。

登録農薬失効情報(2016. 12. 1~2017. 2. 28)

農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の登録農薬失効情報より抜粋

録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名 (略称)	失効日
殺虫剤				
7247	ホサロン乳剤	ルビトックス乳剤	CBC	12/21
14415	BPMC・MEP粉剤	ヤシマスミバッサ粉剤20DL	協友アグリ	12/26
16645	トリフルミゾールくん煙剤	新富士トリフミンジェット	新富士化成業	1/19
18264	エトフェンプロックス・MEP粉剤	ヤシマスミチオントレボン粉剤DL	協友アグリ	1/22
19151	マシン油乳剤	特製ハイマシン95	住友化学	2/26
19161	マシン油乳剤	ヤシマ機械油乳剤95	協友アグリ	2/26
20103	メタアルデヒド粒剤	ナメハンター	日本化薬	12/11
殺虫殺菌剤				
18250	エトフェンプロックス・MEP・フサライド粉剤	ヤシマラブサイドスミチオントレボン粉	協友アグリ	12/22
殺菌剤				
15702	ヒドロキシイソキサゾール・メタラキシル粉剤	タチガレエース粉剤	三井化学アグリ	2/3
15703	ヒドロキシイソキサゾール・メタラキシル粉剤	タチガレエース粉剤	秋田	2/3
16639	ピロキロン粒剤	コラトップ粒剤10	シジエント	1/19
17497	フルトラニル・メタラキシル水和剤	コンバード水和剤	日本農薬	2/13
18239	銅粉剤	ベニドー粉剤DL	丸紅	12/8
21474	メトキシフェノジド・ペンシクロン水和剤	協友モンセレンランナーフロアブル	協友アグリ	2/23
23136	トウガラシマイルドモットルウイルス弱毒株水溶剤	グリーンペーパーPM	微生物化学	2/28
除草剤				
17509	ピリブチカルブ・プロモブチド・ベンゾフェナップ水和剤	ヤシマシーゼットフロアブル	協友アグリ	2/16
20139	シアナジン・DCBN・DCMU粒剤	マスターリーH粒剤	保土谷アグリテック	1/14
20755		たんぼにボンジャンボ	日産化学	2/1
20756	テニルクロール・ピラゾスルフロニエチル・ピリブチカルブ粒剤	大塚たんぼにボンジャンボ	OATアグリ	2/1
20757		トクヤマたんぼにボンジャンボ	イステーエ	2/1
20758		[DIC]たんぼにボンジャンボ	日本曹達	2/1
21444	カフェンストロール・ベンゾピシクロン粒剤	テロス1キロ粒剤	イステーエ	12/8
21445		クミアイテロス1キロ粒剤	クミアイ化学	12/8
21446	イマゾスルフロニ・プレチラクロール粒剤	ゴヨウダジャンボ	住友化学	12/8
21448	イマゾスルフロニ・タイムロン・フェントラザミド粒剤	カルガル1キロ粒剤	バイエル	12/8
22845	プロピリスルフロニ粒剤	協友ゼータワンジャンボ	協友アグリ	12/13
22850	bensulfuron methyl・ベンゾピシクロン・ペンチキサゾン粒剤	プレステージ1キロ粒剤51	科研製薬	12/22
22851		プレステージ1キロ粒剤75	科研製薬	12/22
23417	シアナジン・DCMU・MCP P粒剤	クサダウンドX粒剤	北興産業	1/15
その他				
11984	展着剤	ヤシマステックセル	協友アグリ	2/19

p1の研修会の写真



井村講師

受講者に質問中の田代講師

